

東京オリ・パラの開催準備は加速しているが、県民の機運は盛り上がり欠ける。残る2年弱、県民全体への週知と機運の醸成に一層注力し、大会成功へ導きたい。

オリ・パラ開幕まで2年を切り、聖火リレーの日程や競技スケジュールの大枠が決定したほか、ボランティアの応募受付もスタートするなど、大会準備が進展している。19年には、ボランティアのオリエンテーションや公式チケット販売開始など、運営準備がさらに本格化することとなる。

県内の準備状況を見ると、機運醸成イベントの開催のほか、都市ボランティアの募集が始まっている。ハード面では、7競技の会場となる幕張メッセのリニューアル工事や海浜幕張駅周辺のバリアフリー化が着実に進んでいるほか、一宮町でも、

9月議会で上総一ノ宮駅東口開設事業費として8.1億円の債務負担行為を盛り込んだ予算案を可決し、年内着工に向けて動き出した。

大会準備が進む一方、県民のオリ・パラへの意識や関心は盛り上がり欠く。(株)ちばぎん総合研究所が8月に実施したWEBアンケート調査によると、県内開催8競技の認知度は、「サーフィン」で7割近くに上る一方、「レスリング」、「フェンシング」、「テコンドー」はいずれも1割台と大きな差がみられた。パラリンピック競技は、全て1割未満に止まった。9月に県が行った意識調査では、回答者がアンケート調査協力員であったため、認知度の水準は上がったが、サーフィンが突出している点は変わらなかった。

県内開催競技の観戦意向はオリンピック競技で約4割、パラリンピック競技で約3割となり、県の調査でも結果は概ね変わらない。県内自治体では、パラ競技を中心に、競技観戦や競技体験イベントを開催するなどの取り組みがみられるが、こうした努力は、まだ一部の県民にしか伝わっていない。

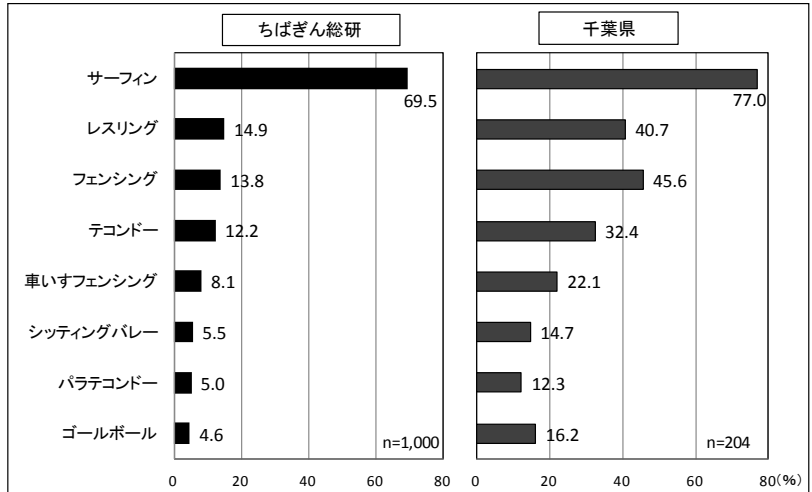
いずれにしても、今から開幕までの2年弱が大会成功に向けた正念場である。今後開催される1つ1つのイベントや迎えるマイルストーンを大切に、その都度周知を図ることで県内の開催機運を盛上げて最終的に各会場を満員し、大会を成功に導きたい。(大塚)

【図表1 18年以降の主な動き】

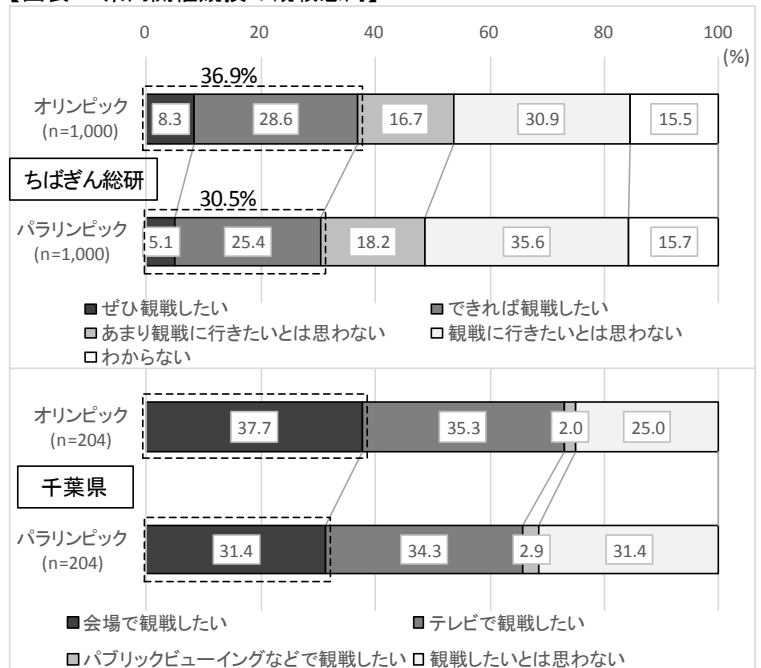
日程	内容
2月28日	大会マスコットデザインが決定(7月22日に名前を公表)
6月13日	改正東京オリ・パラ特別措置法が成立
7月12日	オリンピックの聖火リレー日程が決定
7月18日	オリンピック競技スケジュールの大枠を公表
7月20日	オリンピックのチケット価格の概要を公表
7月24日	オリ大会2年前カウントダウンイベントを開催
8月24日	パラリンピックのチケット価格の概要を公表
8月25日	パラ大会2年前カウントダウンイベントを開催
9月26日～12月上旬	大会ボランティア募集(千葉県都市ボランティアは9月12日～12月10日)
2月	大会ボランティアオリエンテーション(面談等)開始
春	オリンピックチケット販売開始
夏	パラリンピックチケット販売開始
夏	メダルデザイン発表
11月末	新国立競技場完成
3月26日	オリンピック聖火リレースタート(千葉県は7月2～4日)
7月24日	オリンピック開会式

(出所)各種資料よりちばぎん総合研究所作成

【図表2 県内開催8競技の認知度】



【図表3 県内開催競技の観戦意向】



(出所)(株)ちばぎん総合研「東京オリ・パラ開催に関する千葉県民の意識調査結果」千葉県「2018年度第2回インターネットアンケート調査結果」